

## 令和3年度第1回大府市児童老人福祉センター等運営委員会会議録（要約）

開催日時 令和3年6月24日（木） 午前9時30分～10時30分  
開催場所 大府市立吉田児童老人福祉センター  
出席委員 公募委員 田口早苗、大府市民生児童委員協議会（児童部会長）鷹羽美穂子、大府市民生児童委員協議会（主任児童委員）浅田真由美、大府市子ども会連絡協議会（神田学区長）長江妙子、大府市児童センターファミリークラブ（東山）平見舞子、（神田）鈴木宏美、大府市老人クラブ連合会（副会長）鎌田康子、大府市老人クラブ連合会（常任理事）花井静枝、小学校長代表（北山小学校長）倉永直樹  
事務局 健康未来部長、健康未来部子ども未来課長、健康未来部子ども未来課副主幹兼指導保育士、健康未来部子ども未来課子ども支援係長、大府児童老人福祉センター館長、神田児童老人福祉センター館長、神田児童老人福祉センター北崎分館長、北山児童老人福祉センター館長、共和西児童老人福祉センター館長、共長児童センター館長、吉田児童老人福祉センター館長、石ヶ瀬児童老人福祉センター館長、子どもステーション所長  
欠席者 （事務局）福祉部高齢障がい支援課長  
傍聴者 なし

1 市長あいさつ

2 委嘱状交付

3 協議

（1）「令和2年度児童老人福祉センターの活動実績と令和3年度活動計画について」

【資料No.1】

・吉田児童老人福祉センター館長よりパワーポイントで説明。

○質疑応答

（委員）

・東山館長の訃報を聞きました。子どもたちも小さいときから利用させていただき、子どもたちにとって身近な館長で、子どもたちになんて伝えようかと悩みました。コロナになる前から利用させていただいており、コロナになった時に、地域の中にいて不安がぬぐえない時期がありました。センターが休みだった時でも、館中から「お母さん大丈夫」と声をかけてくれました。また、子どもたちを常に気にかけてくれたからこそ、自分たちも何とか乗り越えて来られたと思っています。

・1年間、コロナ禍にありながらも子どもたちや地域の高齢者のために尽力していただき、いろいろな事業をしていただいたことに感謝しています。

最近よく聞くのがセンターを今まで利用していなかったお母さんたちの声です。いろいろな理由があってセンターを利用しないことを選択したお母さんたちグループが、コロナ禍になって自分たちだけで何かしようと思うが、一人でも不安な人がいると何か取り組んだり、遊びに行ったりできなくなってしまった。だけど、センターに行くと安全対策がされていて、同じ子育てをしているお母さんたちがいてと

でも良かったし救いになって、またセンターに行けるようになった。利用していない人に、助けてもらえる所があることを知ってもらえる機会を増やしていただけると母親が救われると思います。私も、センターを利用させていただきながら、地域でできることはないかと思っています。

(委員長)

- ・嬉しいし励みになる、話ですね。センターの職員は、先生というより、地域のお姉さんの雰囲気、同じように話ができるということがいいですね。

(委員)

- ・吉田は、行事が盛んに行われていると思います。長男の時に、東山から足を運んで焼き芋とかの三世代交流の行事に何回か参加したことがあります。高齢者の方との関わりがあり、地域の方とのつながりが強い場所だと感じました。コロナ禍になって、センターに行くことが減り、高齢者の方に会うことも少なくなりました。コロナ対策で先生達もいろいろ考えていると思いますが、今後は対策をしながら世代交流事業を地域でもやっていただけると、子育て世代も参加できると思います。

(委員長)

- ・このように見てくれる方が、インフルエンサーとなって広めてくれると思います。

(委員)

- ・発表を見て、子どもたちの活動の場がこのようにあり、参加させてもらっていることがありがたいと感じています。センターのことを学校として、広く知ってもらうために、センターだよりの配布以外に方法はないのか校長会にも図っていきたいと思います。保護者の目線だと、保護者の交流の場、悩みや情報交換などの役割もあると思われるので、何らかの形で関わらせてもらいたい。学校目線ですが、子どもたちにはセンターを利用してほしいと思うが、放課後クラブとの兼ね合いもあるので連携できるといいと思います。

(委員長)

- ・センターと学校の連携はあると思います。必要な情報は、連携しながら一緒に歩んでいけるとと思います。
- ・次に、協議事項(2)「令和2年度子育て支援の活動実績と令和3年度活動計画について」の説明を事務局からお願いします。

(2)「令和2年度子育て支援の活動実績と令和3年度活動計画について」

【資料No.2】

- ・子どもステーション所長よりパワーポイントで説明。

○質疑応答

(委員)

- ・全てにおいて、コロナ対策をしていて、受け入れ側には負担になっているのではないかと思います。対策をしていただいて地域の方が来ることができるようにしてい

ただいていることは、ありがたいと思います。

相談件数が多いのは、コロナ禍の中でどうしても行き場がなく孤立してしまっている親子がいると思います。話を聞いてくれる場所があることが不安な方には、心強い。相談するには勇気がいります。行政の中に出向いて相談に行くよりも、気軽に相談できる場があり、話ができていることは、母親にとって心強いと思います。

(委員長)

- ・相談したいと考えたときはとても勇気がいります。電話をとるまでに何度か電話の前に行きつ戻りつする。思い切って電話をとって話を聞いてもらおうとした時、フラットに聞いてもらえ、相談者が自分で気付くというような経緯があるからまた相談しようと思える。聴くというのは、難しい部分もあるが親にとっては重要な役割を担ってもらっていると思います。

(委員)

- ・子どもたちの育成に力を入れていることに共感した。子どもステーションは、親子の遊びからふれあいを持ち、絆を作っていると思いました。ふれあいは今の世の中にはすごく必要だと思います。  
消毒については、おもちゃの準備や片付け方に工夫していたり、消毒の器具も工夫したりしていると思います。  
自分は、吉田小学校の下校の見守りをしています。吉田の子は元気がよく、みんなイキイキしている。

(委員長)

- ・吉田に住む住人として嬉しいことです。あいさつは、気持ちがいいですね。

(委員)

- ・子どもが発明クラブを利用していました。去年は、コロナ禍で初めは休みで、始まってからは、できるだけ接することがないようにやっていたようです。うちの子は、コミュニケーションが好きなタイプのため、接することがないような方法は、もういいかなという感じで今年はやめてしまいました。下の子はすごく楽しんでやっています。家でやらせられないことを違う大人の方から教えてもらうのはありがたいので、続けてほしいと思います。

(委員長)

- ・いろいろな人から刺激を受けることはいいことです。

(委員)

- ・自分の子育ての時は、子どもだけでは参加していたが、親子で参加したことが無かった。今は、老人クラブに入って、公民館まつり、保育園で子どもたちと関わっています。こういう場所を利用して活動していることを知り、感心しています。今は、コロナで、できないので残念ですが、収束後はこれまで以上の活動をしてほしいと思います。

(副委員長)

- ・子どもが小さいころ、親子で吉田を利用し楽しく過ごさせてもらっていました。子どもステーションは、孫が発明クラブにお世話になっていて、次から次へと利用できる場があることを嬉しく思っています。コロナ禍で、各児童センターでは消毒・検温など続きますが、前のように触れ合っあそべる時がくるといいと思います。

#### 4 その他

(事務局)

- ・次回の日程について、次第に添って説明。

#### 5 閉会あいさつ

(健康未来部長)